

眼痛を契機に診断された眼結核，粟粒結核の1例

呉家 圭祐 高木 康裕 山入 和志 洲鎌 芳美
白石 訓

要旨：症例は86歳女性。関節リウマチに対してプレドニゾロン3mg/日の内服治療中であった。201X年6月初旬に発熱，左眼痛が生じ，近医眼科に入院となった。左眼耳側結膜下に結節を認め，眼底検査では雪玉様硝子体混濁がみられ，網膜全体に混濁を認めており透見が困難な状態であった。眼内炎が疑われ，抗菌薬，抗真菌薬投与を開始したが，眼症状の改善は認められなかった。入院後の胸部単純X線写真で両側全肺野に小粒状陰影を認め，喀痰検査で結核菌LAMP法が陽性であった。また，採取した左眼前房水からも結核菌PCRが陽性であったことから，眼結核を合併した粟粒結核と診断され，同年6月22日に当院へ紹介入院となった。診断後，イソニアジド，リファンピシン，エタンブトールによる3剤で抗結核薬治療を速やかに開始し，1カ月後には炎症所見の改善，2カ月後には軽度であるが視力の回復を認めた。高齢者の重症結核に眼結核が合併した症例を経験したので報告する。

キーワード：眼結核，粟粒結核，ステロイド